

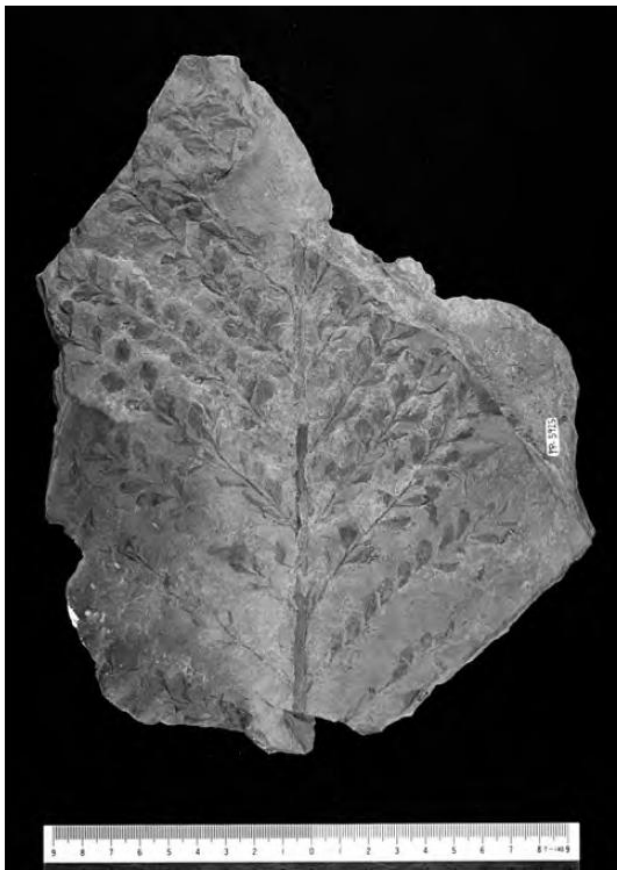
## 『かわはく』での活動 —特別展示の開催支援—

植 田 雅 浩

環境担当は、埼玉県立川の博物館に駐在し、川の博物館を運営する指定管理者が計画した事業の支援や収蔵庫内の資料の管理などを行っています。その一つが特別展示の企画から開催までの2年にわたる支援です。滞第11号では今年度の特別展の構想を紹介しました。本展示は日頃何気なく見過ごしてしまいがちな「葉の形」に注目した展示です。今回はその見どころを紹介します。

### 自然系資料のみどころ1 植物化石

最古の葉をつけたシダ植物ヒカゲノカズラ類の *Bragwanathia longifolia* Lang et Cookson (オーストラリア：シルル紀後期)をはじめ、まだ葉が分化していないシダ植物 *Psilophyton princeps* Dawson (ドイツ：デボン紀前期) や葉らしい葉の化石として最も古いものである *Archaeopteris roemeriana* Goeppert (ノルウェー：デボン紀後期) などを展示する予定です。いずれも国立科学博物館が所蔵する見事な標本です。



*Archaeopteris roemeriana* Goeppert (国立科学博物館蔵)

### 自然系資料のみどころ2 生ける宝石リトープス

もう一つの目玉展示は、厳しい環境に適応してとても変わった形になったリトープスです。リトープスは南アフリカやナミビアの乾燥地に生育し、極端に多肉質な1対の葉を地表に広げます。群馬県在住のリトープス研究者である島田保彦氏の協力を得て、生きた植物によるジオラマ展示を製作する予定です。このジオラマに用いる個体は、島田氏が生育地で採取した種子に由来する個体です。日本の気候に合った生育をしているため、展示期間中に開花している様子も観察できそうです。10月17日には埼玉県立川の博物館で島田氏による講演会も予定されています。



*Lithops vallis-mariae* (ナミビアにて島田保彦氏撮影)

このほか「葉の利用」として、貝多羅葉(加工したオウギヤシなどの葉)に写経した貝葉経や、奇妙な葉が描かれる江戸時代の園芸書、葉がデザインされた兜などの工芸品も展示する予定です。この特別展が、自然と人々の暮らしの関わりから植物を見つめ直すきっかけとなるように川の博物館と協力しています。

#### 特別展『葉—その形と利用』

会 期 9月18日(土)～11月14日(日)

会 場 埼玉県立川の博物館(要入館料)

埼玉県大里郡寄居町小園39

TEL 048-581-7333 FAX 048-581-7332

休 館 日 月曜日(9/20と10/11は開館)

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

(う えだ まさひろ・担当課長)